

クライアントの立ち位置から

～「ADL」と「仕事」と「海釣り」と～

デイサービスけやき通り 葉山 靖明

福岡市在住の若く熱きOTさんとその元患者さんをステージにお呼びし、葉山がインタビューをします。「OTとCL」に葉山がインタビューです。

片麻痺者でもあり、作業療法体験者でもある葉山が、①入院時、②退院時、③自宅生活時という時期別にどんな作業療法が必要なのかを探っていきます。患者の気持ちは？OTの想いは？主体性は？ハビリテーションの目的地は？作業療法？とはとクローズアップしていきます。

実際に今年4月のある日曜日、その若きOTと元患者さんは、「海釣り」に出かけました。特別な補助具を準備し、共に海へ行きました。私も同行させていただきました。(写真)

この「海釣り」という「作業の意味」を通して、未来に向けて何が動き出したかを、画像込みで紹介し、会場の皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

私の「想い」を少し書かせてください。

私が作業療法に魅せられ、この世界に入って早6年が経ちます。

この世界に入ってみると、作業療法の対象分野が予想以上に広く、深く、そして長いことに驚きました。私が体験し、認識した作業療法はほんの一部だったと愕然としました。そして手法も学説も覚えきれないくらいの数……。混乱しました。

「それぞれの作業療法の中の“違い”を追求することも大切だけど、各作業療法の中の“同じところ”を認識しあえば？そうすれば大きな力の存在が見えるのでは？」と考えるようになりました。

OTコラボレーション研究会の先生方とお会いしたのはそういった時期でした。

素人の私からはOTさんは①「深い想いを持ち」と②「クライアントがもう一度生活に戻るための優しい思考を備え」と③「Occupationと Myself を見事に使う」という特別な医療専門職です。クライアントから見えた①～③こそが、「作業療法士」だと私は思っています。

今回、私は企画・立案にも参加し、講演会運営に携わる講師である「クライアント」。

「クライアントとの協働作業」とは本ではよく見かけますが、今回のように大掛かりな設定は、世界でも稀なのではと有難く思います。多くの先生方に深く感謝いたします。

